

2-5 農地・森林・緑地の保全

2-5-1 緑化の推進

【目標】 おおむね30年後の姿

- 総合的な都市緑化を推進していくために、緑化の充実を図る必要のある地区、緑化を推進することが効果的な地区を指定し、重点的な緑化を進める
- 都市公園はまちの緑の基幹的な施設であるため、一人当たりの都市公園面積の目標値（20.0m²/人）を指標とし、都市公園の整備を推進する

■現 状【進捗率：82%】

- 一人当たりの都市公園面積16.77m²/人（令和4年度末）

■第2次短期（おおむね5年）の目標【進捗率：82%】

- 一人当たりの都市公園面積は前年度実績を保持する
- 緑化の推進や保全についての市民意識の高揚を図る

■第2次中期（おおむね10年）の目標【進捗率：82%】

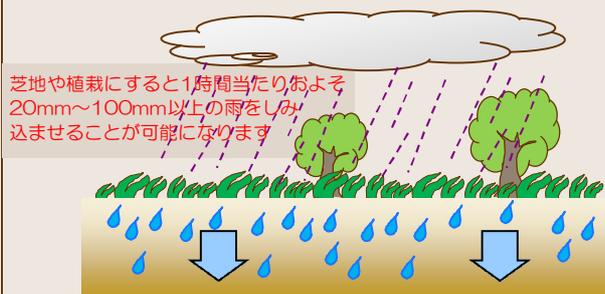
- 一人当たりの都市公園面積は前年度実績を保持する
- 緑化の推進や保全についての市民意識の高揚を図る

浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第1次	第2次		目標 (おおむね30年)
					短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	
⑤農地・森林・緑地の保全								
緑化の推進	○	○	○	行動	「緑の基本計画」に基づく公園整備の推進			
				進捗	82%	82%	82%	82%

図2-5-1 緑化の推進のロードマップ

◇ コラム

緑地の浸水対策効果



緑地は雨水の流出を抑制する有効な土地利用対策です。都市公園や公共施設をはじめ、市民や事業者が所有する土地などで、緑化を推進することで、雨水の地下への浸透が促進されます。その結果、河川や下水道等への流出量が抑制されることにより、浸水対策としての役割を担っています。

○具体的な取り組み 「緑の基本計画」の推進

「緑の基本計画」は、都市緑地法第4条に基づき、市町村が緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、その目標と実現のための施策等を内容として策定する緑とオープンスペースに関する総合的な法定計画である。また、岡山市においては「緑の基本計画」を岡山市環境保全条例第30条の2に定めている。

計画の概要			
目標年次	平成37年	人口フレーム	目標年次71.5万人（全域）
将来像	活力と笑顔が集う水と緑あふれる桃太郎のまち		69.9万人（都市計画区域）
基本方針	個別施策		
基盤となる緑を守る	ガーデンリング構想の推進、農地・森林等緑地の保全と活用		
身近な緑を増やす	公共空間の緑化、住宅地の緑化、商・工業地の緑化、各種制度の活用		
魅力ある緑を創る	都市公園等の整備・充実、水辺や緑道の魅力向上とネットワーク化、防災機能の充実		
みんなで緑を育てる	緑化意識の高揚、市民・企業・行政等の協働、緑に関する専門的な調査研究		
効果的に緑を使う	パークマネジメント推進と中心市街地の魅力と賑わいの創出		

図2-5-2 緑の基本計画の概要

○具体的な取り組み（緑化の推進）

総合的な都市緑化を推進していくために、緑化の充実を図る必要のある地区、緑化を推進することが効果的な地区として下図の3地区を指定し、重点的な緑化を進めている。

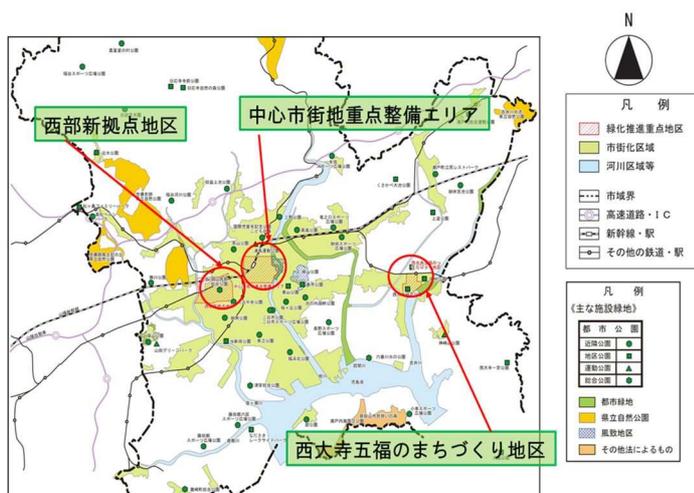


図2-5-3 重点的な緑化実施位置図



写真2-5-1 緑化の推進（下石井公園）

2-5-2 農地・森林の保全

【目標】 おおむね30年後の姿

- 老朽化した農業用施設の改修や適時適切な補修・長寿命化対策による農業の経営環境の改善、農地の大区画化や排水改良等による農業生産性の向上等により、農用地を確保する
- 林道等の維持に努めるとともに、森林境界の確認等の施業集約化を促進する
- 森林公園の維持管理を行い、市民に憩いとレクリエーションの場を提供する

■現 状

- 農業用水路、ため池等の農業用施設の老朽化が進展し、維持管理や更新のコストが増大している
- 市街地近郊に森林がある環境となっており、市民の保健休養・レクリエーション等の場として、市内3カ所の森林公園が利用されている。また、林業に利用される人工林の割合は低い状況となっている

■第2次短期（おおむね5年）の目標

- 農地の大区画化や排水改良等により農業生産性の向上を進めるほか、主要な農業用施設等の点検体制を整備し、改修や補修・長寿命化対策を推進し、農用地を確保する
- 林道等の維持に努めるとともに、森林境界の確認等の施業集約化を促進する
- 森林公園の維持管理を行い、市民に憩いとレクリエーションの場を提供する

■第2次中期（おおむね10年）の目標

- 農地の大区画化や排水改良等により農業生産性の向上を進めるほか、主要な農業用施設等の点検体制を整備し、改修や補修・長寿命化対策を推進し、農用地を確保する
- 林道等の維持に努めるとともに、森林境界の確認等の施業集約化を促進する
- 森林公園の維持管理を行い、市民に憩いとレクリエーションの場を提供する



整備前



整備後

写真2-5-2 農地の大区画化イメージ
(参照：国土地理院)写真2-5-3 森林公園の維持管理
(貝殻山)

2-5-3 田んぼダムの取り組み促進【新規】

【目標】 おおむね30年後の姿

- 田んぼダムの取り組み地域を拡大し、治水安全度の向上を図る
- 田んぼダムの取り組みを通じ、地域住民の防災・減災への理解を深める

■現 状

- 多面的機能支払交付金において、田んぼダム取り組み団体（1団体）に対し加算を実施
- 田んぼダムの啓発チラシを作成し、田んぼダムの取り組みについて周知

■第2次短期（おおむね5年）の目標

- 田んぼダムの取り組みを促進し、治水安全度の向上を図る
- 田んぼダムの取り組みについての周知広報活動を行う

■第2次中期（おおむね10年）の目標

- 田んぼダムの取り組みを促進し、治水安全度の向上を図る
- 田んぼダムの取り組みについての周知広報活動を行う

「田んぼダム」で水害から地域を守りませんか？

田んぼダムとは？

田んぼが元々持っている水を貯める機能を利用し、大雨の際に一時的に田んぼに水を貯めゆっくりと排水することで、農地や市街地の浸水被害を軽減しようという取り組みです。

Point1
田んぼに降った雨を、排水口を狭くしてゆっくり排水することで、大雨時に雨水が一時的に田んぼ内に貯留され、浸水被害を軽減します。

Point2
完全に排水を止めるのではなく、排水量を減らし一時的に田んぼに水を貯留します。

Point3
「安価」で「直ぐ」に実施出来る治水手段です。

Point4
上流部の水田からの排水を抑制することで、下流部にある大豆などの転作水田が浸水被害を受ける可能性を低減する効果があります。

写真提供：新潟市

5cmの貯水により10haで5千t(25mプール8個分)の水を貯留できます。岡山市取組農地33haで16.5千t※(25mプール27個分)の貯水効果が見込めます。※現在より5cm高く貯水すると仮定

岡山市 OKAYAMA CITY

行政からの支援について

「多面的機能支払交付金」事業が活用できます。

資源向上活動 での 48 水田の貯留機能向上活動
55 防災・減災力の強化
田んぼダムに取り組むことができます。

加算金の対象になる場合も

多面的機能支払交付金の交付を受ける田面積全体のうち5割以上で田んぼダムに取り組む場合は、田んぼダム加算の対象となります。

田んぼダム加算金	400円/10a	田んぼダム加算金	田んぼダムの加算単価	
田んぼダム10aにつき+400円	2400円/10a			資源向上支払交付金
	3000円/10a			農地維持支払交付金

※農地・水保全管理支払の取組を含め5年間以上実施する地区は単価に0.75を乗じた額になります。

従来単価
事業計画期間5年

田んぼダムに関するQ&A

Q1. 田んぼダムって何をやるの？

「田んぼダム」は水田の排水口に穴の閉いた調整板などを設置するだけなので、大規模な工事はありません。破損、ゴミ詰まりがないか通常の水管理時に合わせて定期点検を行います。

Q2. 調整板はいつ設置するの？

代掻きや田植え時に一時的に外す場合がありますが、冬も含め通年で設置します。稲の生育に影響のない範囲で状況に応じて取り組みを行います。

○岡山市取組事例 内尾南みどりの会
(取組のきっかけ)
内尾南地区は二級河川である妹尾川流域の干拓地であり、大雨による浸水被害の軽減を図るために始めました。
(取り組んでみて感じたこと)
実施以後、大雨の発生がなく、具体的な効果を体感していません。維持・管理については、調整板にゴミが詰まっていないか適宜点検を行っています。農作物への影響は特に感じていません。

取組開始年 令和4年
令和4年度取組実績 33ha

お問い合わせ先
○田んぼダムの取り組みに関すること：下水道河川計画課 河川防災室 ☎086-803-1434
○多面的機能支払交付金に関すること：農林水産課 ☎086-803-1349

図2-5-4 田んぼダム啓発チラシ

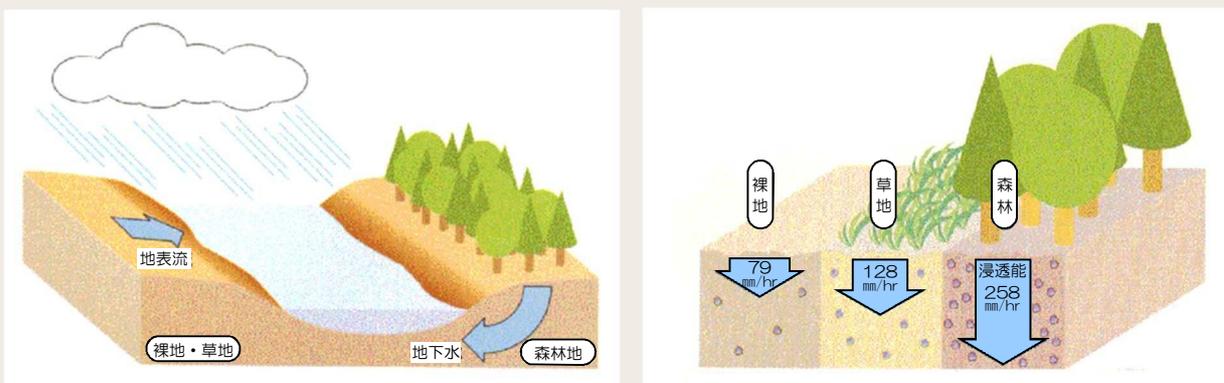
＜農地の多面的機能＞

近年、これまでに観測されなかったような猛烈な暑さが続いたり、突然の集中豪雨による洪水被害や土砂災害が発生するなど、異常気象により大きな影響が及んできており、このような異常気象の増加は地球温暖化の影響ともいわれている。農地の有する多面的機能には、このような暑さを和らげる機能や洪水や土砂災害を防止・軽減する機能があります。出典：農林水産省HP参照

<p>気温の上昇を防ぐ (気候緩和機能)</p> <p>水が貯められた水田は、水の比熱が大きいことや水が蒸発するときに周りの熱を奪うことから、周りの空気を冷やす効果があります。また、冷やされた空気が流れ込むことにより市街地の気温上昇も緩和されます。</p> <p>水面や作物からの水分の蒸発による空気の冷却 市街地の気温の低下 冷却された空気の移流</p> <p>用水路 水田 排水路 市街地</p>	<p>洪水を防ぐ (洪水防止機能)</p> <p>水田は周りをあぜで囲まれており、雨水を一時的にたくわえることが出来ます。このおかげで、大量の雨が降っても、一気に水が流れ出すことはなく、水路や川の急な増水による洪水の危険を減らしてくれます。</p> <p>水田や畑に雨水が一時的に貯留されることにより、河川の増水を緩和します。</p> <p>用水路 排水路 河川</p>	<p>土砂崩れを防ぐ (土砂崩壊防止機能)</p> <p>傾斜地の農地では、生産活動を通じた日々の手入れにより、斜面が崩れるのを未然に防いでいます。また、耕作されている水田には耕盤があり、雨による急激な地下水水位の上昇を抑え、地すべりも防止しています。</p> <p>耕作中の水田 耕作が放棄された水田 代かきなどによる水を通しにくい層(耕盤)の形成 耕作放棄による耕盤畦畔の破壊 穏やかな地下水の浸透 地すべりの抑制 急激な地下水の浸透 地すべりの誘発</p>
---	--	--

＜森林の多面的機能＞

森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持っています。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化されます。出典：農林水産省HP参照



資料：村井宏・岩崎勇作「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」

2-6 公共施設における貯留・浸透施設の設定

2-6-1 市管理の施設における雨水貯留・浸透施設

【目標】 おおむね30年後の姿

- 市が所有する公共建築物において、新築や増築等に合わせて雨水貯留施設を設置する
- 設置箇所：430施設（合計貯留量：43,000m³）（※）
- 公園、緑地の新設・再整備に際しては、雨水流出抑制施設の設置を推進する

■現 状【進捗率：3%（令和4年度末）】

- 市が設置又は管理する施設の新築、増築、建替えに伴う雨水貯留施設の設置を条例により計画の義務化され、敷地面積が3,000m²以上の新築、増築、建替えについて随時協議を進めている
- 北長瀬未来ふれあい総合公園での雨水貯留施設設置を完了

■第2次短期（おおむね5年）の目標【進捗率：26%】

- 敷地面積が3,000m²以上の新築、増築、建替えについて雨水貯留施設を設置し、3,000m²未満の施設においても積極的に雨水貯留施設の設置を推進する
- 設置箇所：110施設（合計貯留量：11,000m³）（※）

■第2次中期（おおむね10年）の目標【進捗率：30%】

- 設置箇所：130施設（合計貯留量：13,000m³）（※）

（※）設置箇所、合計貯留量は岡山市公共施設等総合管理計画に基づき、50年経過した施設の半数で対策を行い、1施設につき100m³の雨水貯留施設を整備すると仮定して試算

表2-6-1 市管理施設の内訳（岡山市公共施設等総合管理計画より）

大区分	中区分	施設数	棟数	延床面積（㎡）
公共施設	1 行政事務系施設	339	503	148,359
	2 環境施設	34	114	97,583
公共用施設	3 医療・福祉施設	39	50	70,829
	4 子育て支援施設	200	518	125,505
	5 学校教育施設	129	2,258	897,377
	6 市民文化系施設	131	176	90,369
	7 社会教育施設	76	113	73,921
	8 スポーツ・レクリエーション・観光施設	26	97	36,641
	9 公営住宅	129	1,707	332,282
	10 その他施設	42	53	6,083
	11 普通財産等	101	203	71,833
	12 文化財施設	5	10	1,255
合 計		1,251	5,802	1,952,038



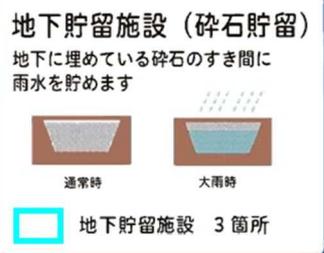
写真2-6-1 上道地域センター 砕石貯留

浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第2次			目標 (おおむね30年)	
					第1次 短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)		
⑥公共施設における貯留浸透施設設置									
市管理の施設への雨水貯留・浸透施設	○	-	-	行動 進捗	雨水貯留施設の設置				
					0%	3%	26%	30%	100%

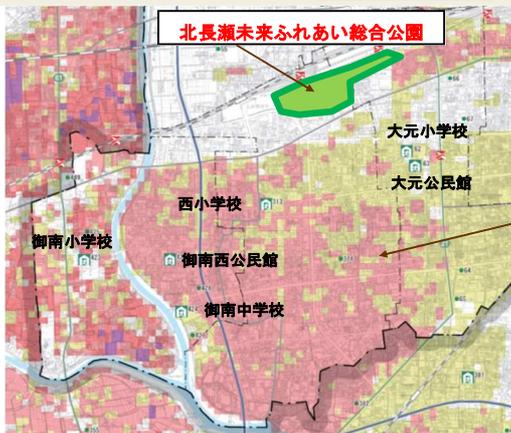
図2-6-1 市管理の施設における雨水貯留・浸透施設設置ロードマップ

○具体的な取り組み 北長瀬未来ふれあい総合公園での雨水流出抑制対策の実施

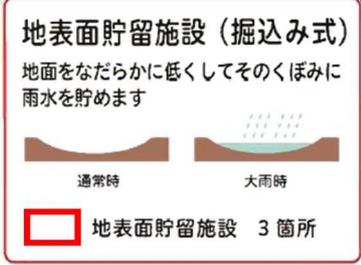
北長瀬未来ふれあい総合公園の事業概要
 位置：岡山市北区北長瀬表町一丁目・二丁目、野田四丁目
 交流・防災拠点として整備
 総面積：14.3ヘクタール



北長瀬未来ふれあい総合公園 雨水流出抑制対策



内水ハザードマップによる浸水想定区域



北長瀬未来ふれあい総合公園は浸水常襲地区である西排水区の上流部に位置し、流出抑制対策を実施することで、下流域の西排水区において浸水被害の軽減が期待される。

◇ コラム

浸水リスクを考慮した新庁舎の整備

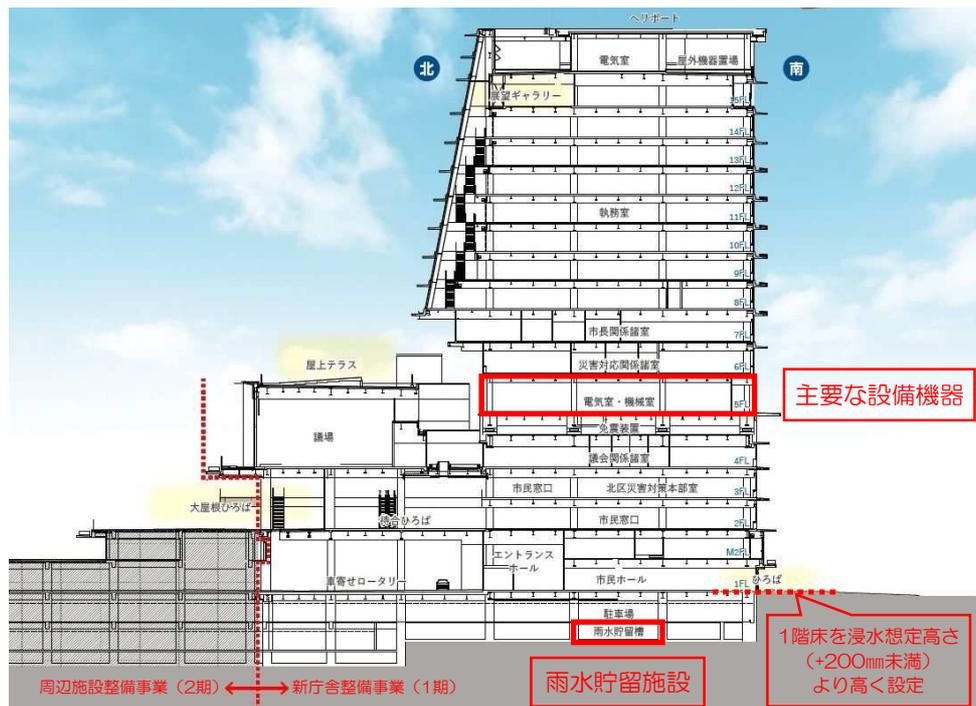
<事業概要>

令和8年度中の供用開始を目指して建設工事を行っている市役所新庁舎は、市民の安全・安心を守る防災拠点として、浸水リスクを抑え、地震に強い建物とすることで、発災時にも業務継続が可能な災害に強い庁舎を目指しています。



<浸水リスクの考慮>

- ① 雨水貯留（約280 m³）・浸透施設を設置し、周辺の浸水被害を軽減
- ② 内水浸水想定高さ（+200 mm未満）より1階床を高く設定
- ③ 主要な設備機器は浸水の恐れがない5階に配置
- ④ 駐車場出入口へ止水板を設置し、地階の浸水に備える



2-6-2 市管理の施設（学校）における雨水貯留・浸透施設

- 【目標】 おおむね30年後の姿
- 雨水貯留タンクを市内すべての小学校90校に設置する
 - 市内すべての小学校で浸水対策に関する出前授業を実施し、子供を通して浸水対策への市民の理解を深める

■現 状【進捗率：36%（令和4年度末）】

- 南輝小学校、芳泉小学校など累計32校に雨水貯留タンクを設置している
- 5年間の貯留タンク設置計画を策定している
- 雨水貯留タンクを設置した小学校へ出前授業を実施している

■第2次短期（おおむね5年）の目標【進捗率：52%】

- 建替え等工事に伴う雨水流出抑制施設計画を策定する
- 雨水貯留タンクを15小学校（累計47小学校）に設置する
- 15校において出前授業を行い、浸水対策への啓発活動を推進する

■第2次中期（おおむね10年）の目標【進捗率：69%】

- 建替え等工事に伴う雨水流出抑制施設計画を策定する
- 雨水貯留タンクを15小学校（累計62小学校）に設置する



リモートによる出前授業



写真2-6-3 Youtube動画による授業教材



雨水貯留タンク
(貯留量500リットル)

写真2-6-4 雨水貯留タンク設置状況

写真2-6-2 出前授業の様子

浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第1次		第2次		目標 (おおむね30年)
					短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	
⑥公共施設における貯留浸透施設設置									
市管理の施設(学校)における雨水貯留・浸透施設	○	○	-	行動	雨水貯留タンクの設置				100%
					出前授業の開催				
				進捗	9%	36%	52%	69%	

図2-6-2 市管理の施設（学校）における雨水貯留・浸透施設設置のロードマップ

2-6-3 透水性・排水性舗装の採用

【目標】 おおむね30年後の姿

- 主要な道路の歩道で透水性舗装の採用を進める
- 主要な道路において排水性舗装の採用を進める
- 合計で約2,400m³の貯留効果を確保する

■現 状【進捗率：34%（令和4年度末）】

- 透水性、排水性舗装の実施箇所は一部に限られている

■第2次短期（おおむね5年）の目標【進捗率：59%】

- 中心市街地において主要な道路の改修等を実施する際には、歩道への透水性舗装の採用について検討する
- 県道岡山児島線、市道今西市線、県道岡山玉野線、市道三浜町築港栄町線、(都)上石井岩井線において、排水性舗装を実施する
- 市道表町21号線、市道石関町3号線、(都)上石井岩井線において、透水性舗装を実施する

■第2次中期（おおむね10年）の目標【進捗率：89%】

- 市道今西市線、県道岡山玉野線、県道西大寺山陽線、(都)下中野平井線、(都)大元二日市町線において、排水性舗装を実施する
- (都)大元二日市町線において、透水性舗装を実施する

岡山市みちづくり計画に位置付けられた、環状道路や電線共同溝整備路線などの事業中路線を排水性舗装とすることによる効果

(舗装厚さ50mm、空隙率20%として計算)

⇒ 100m²当たり1m³の貯留量



写真2-6-5 排水性舗装施工状況

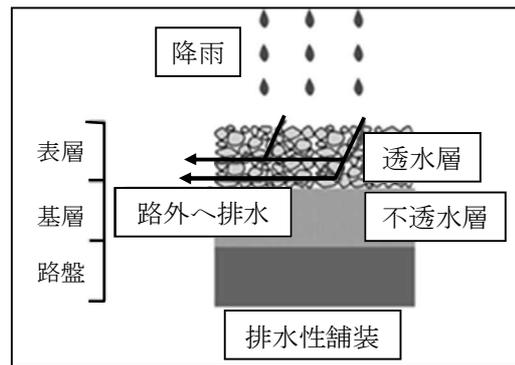


図2-6-3 排水性舗装構造概念図

浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第2次			目標 (おおむね30年)	
					第1次 短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)		
⑥公共施設における貯留浸透施設設置	○	-	-	行動	透水性・排水性舗装の採用推進				
透水性・排水性舗装の採用	○	-	-	進捗	0%	34%	59%	89%	100%

図2-6-4 透水性・排水性舗装の活用のロードマップ

2-6-4 国等公共機関の管理する施設における雨水貯留・浸透施設

【目標】 おおむね30年後の姿

- 国や県等公共機関の所管する公共建築物において、新築や増築等に合わせて雨水貯留施設を設置する

■現 状

- 条例により、国や県等が設置又は管理する施設の新築、増築、建替えに伴う雨水貯留施設の設定に努める

■第2次短期（おおむね5年）の目標

- 敷地面積が3,000m²以上の新築、増築、建替えについて雨水貯留施設を設置する

■第2次中期（おおむね10年）の目標

- 敷地面積が3,000m²以上の新築、増築、建替えについて雨水貯留施設を設置する

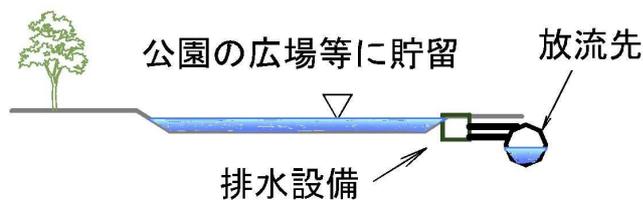
表2-6-2 国等公共機関が所管する施設の例

区 分	施 設 名 称
岡山県	県庁舎、県民局、中学校、高等学校、警察署、県総合グラウンド、等
国関係	岡山地方合同庁舎、各庁舎、各出先事務所、等

浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第1次	第2次		目標 (おおむね30年)
					短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	
⑥公共施設における 貯留浸透施設設置								
国等公共機関の 施設における 雨水貯留・浸透施設	○	-	-	行動	雨水貯留施設の設置			

図2-6-5 国等公共機関の管理する施設における雨水貯留・浸透施設設置のロードマップ

公園の広場、緑地、池等を利用した地表面貯留施設



駐車場を利用した地表面貯留施設

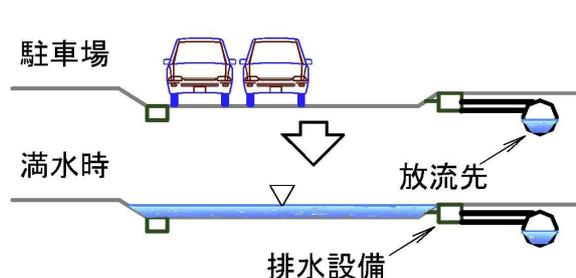


図2-6-6 貯留施設の一例

2-7 民間施設における貯留・浸透施設の設定

2-7-1 開発行為等における雨水流出抑制対策の実施

【目標】 おおむね30年後の姿

- 3,000m²以上の開発行為等において、流出抑制対策が実施される

■現 状

- 条例により3,000m²以上の開発行為等について、雨水排水計画に関する事前協議を義務化（平成30年4月より）
- あわせて補助制度を拡充することで、事業者の負担を軽減*

■第2次短期（おおむね5年）の目標

- 3,000m²以上の開発行為等について、流出抑制対策を実施する
- 雨水排水計画の協議の義務化および補助制度について、周知広報活動を行う

■第2次中期（おおむね10年）の目標

- 3,000m²以上の開発行為等について、流出抑制対策を実施する
- 雨水排水計画の協議の義務化および補助制度について、周知広報活動を行う

大規模な開発行為等を行う事業者の方は、雨水流出抑制対策の実施が必要です。雨水流出抑制対策により河川や下水道への雨水流出量の抑制につながり、浸水被害を軽減できます。開発の規模に関わらず積極的な対策の実施が望まれます。

☆詳しくは「雨水流出抑制対策の手引き」をご覧ください。手引きについては下水道河川局、各区役所の窓口やホームページから入手可です。岡山市ホームページから「雨水排水計画」で検索。
(<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000017180.html>)

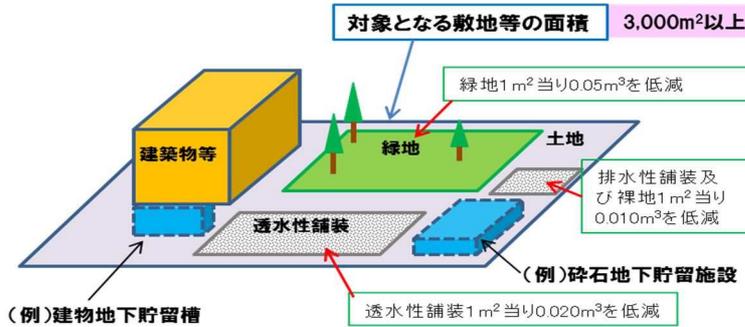


図2-7-1 開発行為等における雨水流出抑制対策の概要



写真2-7-1 開発行為等における雨水流出抑制対策の実施

※「雨水流出抑制施設設置補助金制度」について

補助要綱等については下水道河川局、各区役所の窓口やホームページで入手可です。

岡山市ホームページから「流出抑制施設 補助」で検索。

(<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000002949.html>)



浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第2次			目標 (おおむね30年)
					第1次 短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	
⑦民間施設における貯留浸透施設設置								
開発行為等における雨水流出抑制対策	○	-	○	行動	流出抑制対策の実施			

図2-7-2 開発行為等における雨水流出抑制対策の実施のロードマップ

2-7-2 戸別住宅等における浸水被害軽減対策に対する助成等

【目標】 おおむね30年後の姿

- 助成件数：1,600件、貯留量：320m³ ※
- 雨水貯留タンクを通じた市民の浸水対策意識を向上させる

■現 状【進捗率：33%（令和4年度末）】

- 公共下水道切替えに伴い浄化槽を雨水貯留槽へ転用する場合の助成を行っている
- 平成29年度より市民設置の雨水貯留タンクへの新たな助成制度を開始 広報活動による、市民への周知を行っている

■第2次短期（おおむね5年）の目標【進捗率：38%】

- 助成件数：600件、貯留量：120m³※
- 雨水貯留タンクの設置について、周知広報活動を行う

■第2次中期（おおむね10年）の目標【進捗率：53%】

- 助成件数：850件、貯留量：170m³※
- 雨水貯留タンクの設置について、周知広報活動を行う

※助成件数及び貯留量は、助成件数：50件/年、貯留量：0.1 m³/件 と仮定した数値

市と市民が協力して浸水対策に取り組むために、市は戸別住宅等の雨水貯留タンク購入費の一部を助成し設置を推進しています。雨水貯留タンクは河川や下水道への雨水流出量の抑制につながり、浸水被害を軽減できます。市民の皆さんの積極的な活用が必要です。



写真2-7-2 雨水貯留タンク設置事例（プレステージ城東展示場より提供）

☆詳しくは「雨水貯留タンク設置助成ご案内」のパンフレットをご覧ください。パンフレットは下水道河川局の窓口やホームページから入手可能です。岡山市ホームページから「雨水貯留タンク」で検索。
(<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000002949.html>)
また、下水道への接続で不要となった浄化槽を雨水貯留タンクに改造するための助成も行っています。



浸水対策	市	市民	事業者	時期 (2018年～)	第2次			目標 (おおむね30年)
					第1次 短期 (おおむね5年)	短期 (おおむね5年)	中期 (おおむね10年)	
民間施設における 貯留浸透施設設置								
戸別住宅等における 浸水被害軽減対策	○	○	-	行動	雨水貯留タンクの設置(浸水対策の意識向上)			
				進捗	4%	33%	38%	53%

図2-7-3 戸別住宅等における浸水被害軽減対策に対する助成等の実施のロードマップ

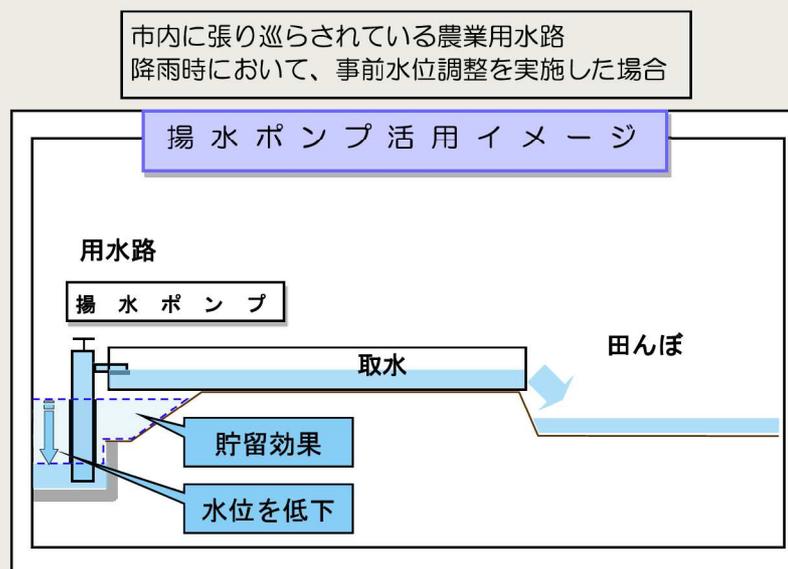
◇ コラム

揚水ポンプ活用による貯留効果

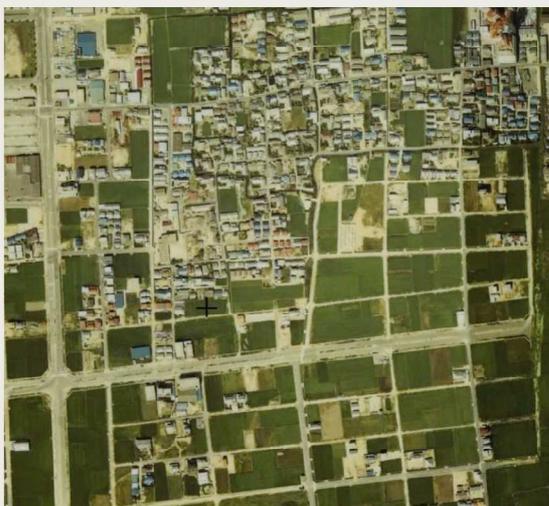
水田への取水は、そのほとんどが用水路の水位を高く保持し、自然な流れにより用水路から水田に取水しています。しかし浸水対策の観点からは、用水路への雨水の貯留容量を確保するため、降雨の前に用水路の水位をできるだけ低くしておくことが望ましいです。

このため、水田が少なく点在するような地区では、用水路の水位を低く保ち揚水ポンプ等により水田へ取水することによって、浸水対策へ寄与することも可能です。

したがって、揚水ポンプの設置や管理に対する助成等を含めた、用水路の有効活用について検討を進めていきます。



北区今付近（市街化区域）の様子
市街化の進展により、水田が減少していることがわかる



1980年頃



現在の様子（最新：2007年以降）

（参照：国土地理院）